

マタイ

11

主に委ねて 踏み出そう

マタイ福音書5章23～48節

山上の説教④ 主への従順

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

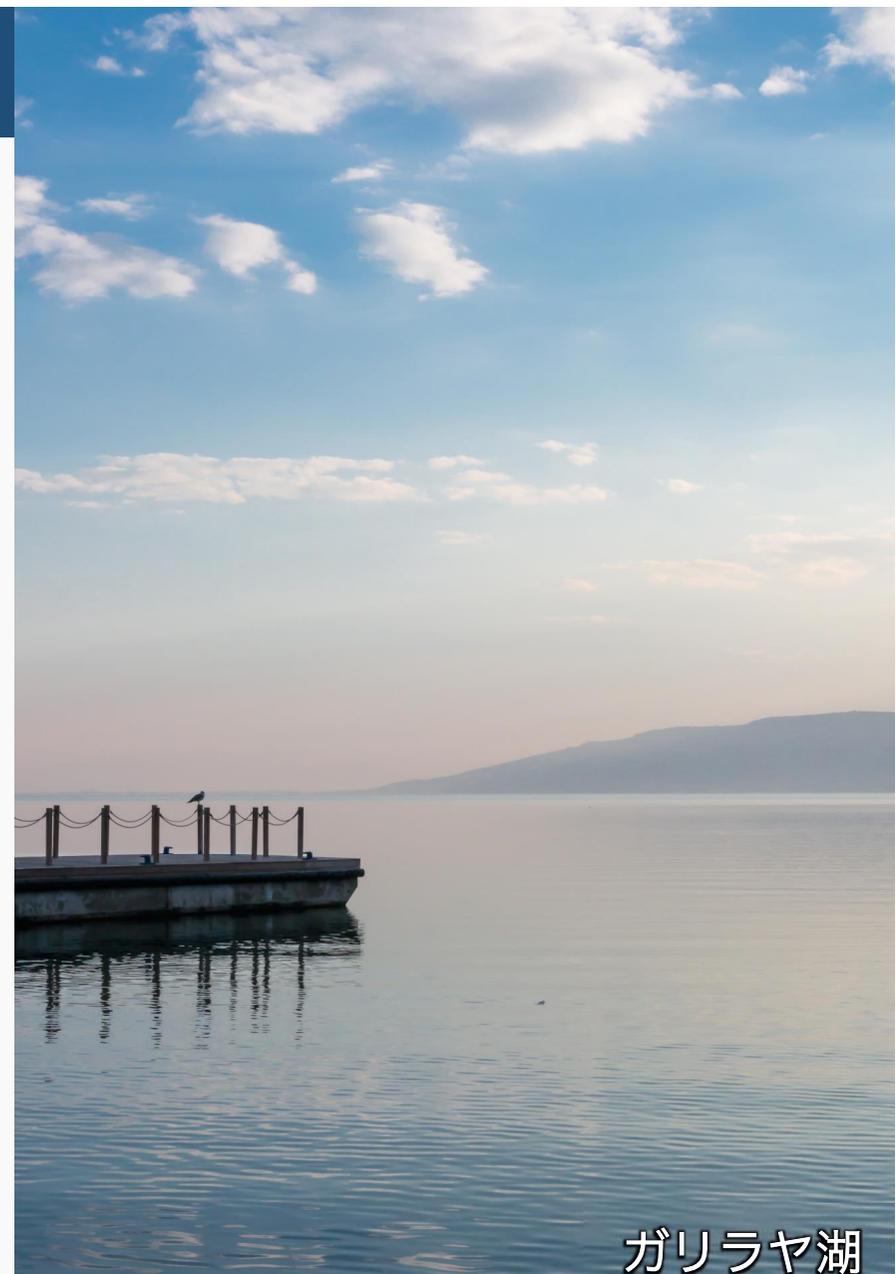
I. 正しい誓い 5:33～37

II. 主への従順 5:38～42

III. 完全な愛 5:43～48

IV. まとめと適用

キリストの花嫁として





0. イントロダクション

ガリラヤ湖

メシアによる宣教の開始

■ マタイ福音書4:17

この時からイエスは宣教を開始し、

「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」

と言われた。

**イスラエルのメシアは来られた!!
メシアを信じ、従いなさい!!**

メシアの生涯

宣教

→ 拒絶

→ 弟子訓練

→ 十字架へ



最後の晩餐

エルサレム入城

最後の弟子訓練

山上の変容

ペトロの信仰告白

五千人の食事

たとえ話

ベルゼブル論争

安息日(律法解釈)論争

メシア的奇跡

宣教開始

弟子の召命

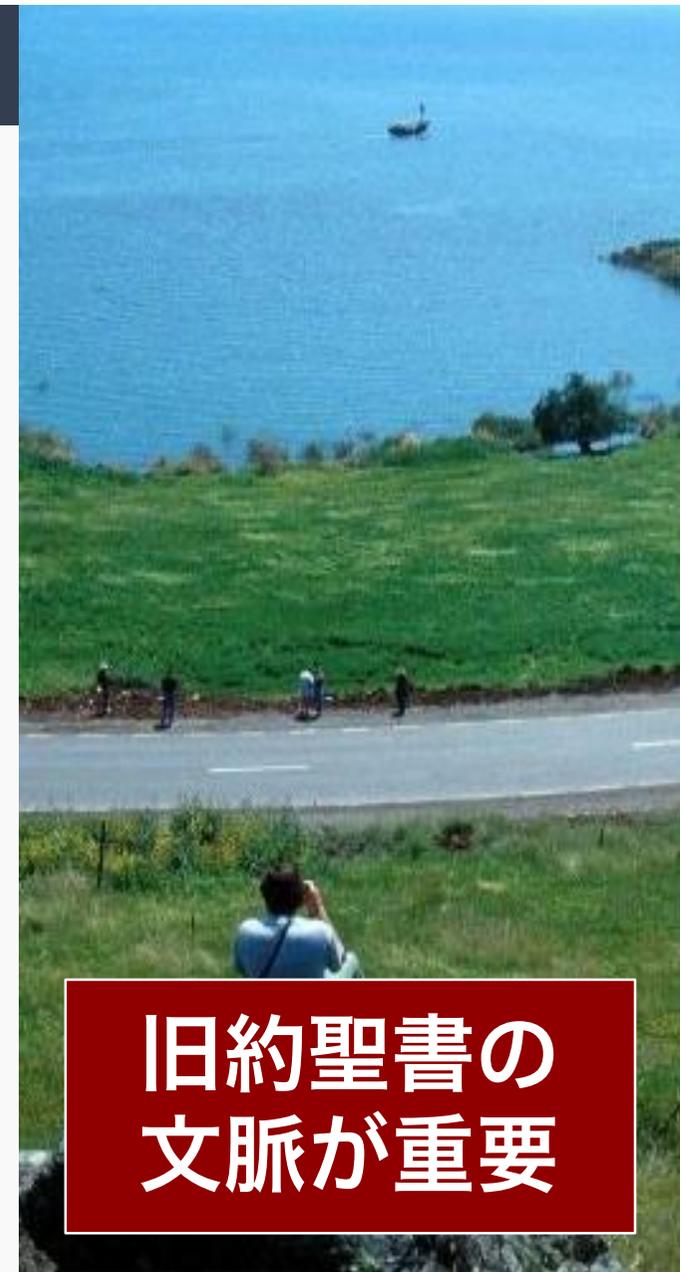
荒野の誘惑

バプテスマ



山上の説教とは？ マタイ5～7章

- ガリラヤ湖畔で語られた、イエスの**説教集**。
→ 丘の上、もしくは湖面(ルカ6章)から
- パリサイ派の「**口伝律法**」の間違いを指摘。
神の「**律法**」の真の意味と適用を教えられた。
→ 十字架以前のこの時点は、**律法の時代**
- 「山上の説教(垂訓)」とは、
→ メシアによる直々の**律法解釈!!**
→ **イスラエル**に向けて語られた



旧約聖書の
文脈が重要

メシアがイスラエルに突きつけること

- 兄弟を罵る罪は、永遠の裁きに至る罪
- 情欲の目を向ければ、姦淫同然の罪

…etc

一体誰が、律法を守り通せるのか？



Ⅰ. 正しい誓い

マタイ5章33～37節

ガリラヤ湖畔

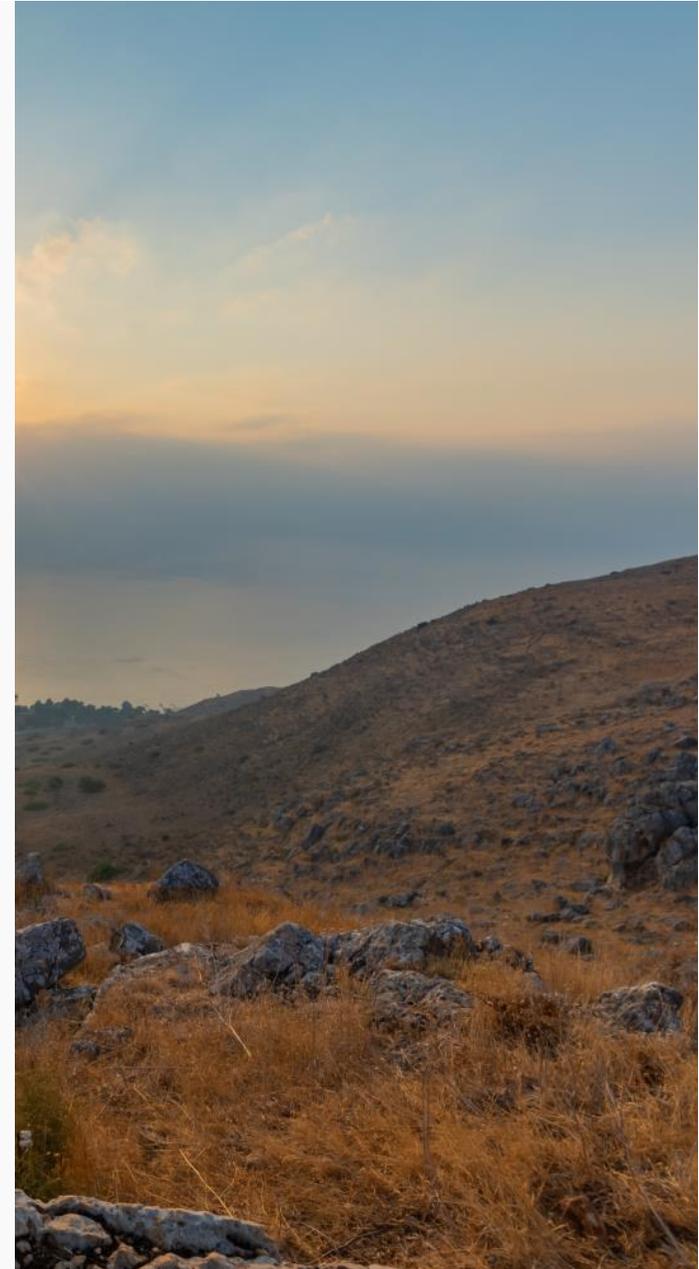
垂訓 律法における誓い マタイ5:33

また、昔の人々に対して、『偽って誓ってはならない。あなたが誓ったことを主に果たせ』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。

「レビ19:12 あなたがたは、わたしの名によって偽って誓ってはならない。そのようにして、あなたの神の名を汚してはならない。」

「民 30:2 すべて自分の口から出たとおりのことを実行しなければならない。」

「申 23:21 あなたの神、【主】に誓願をするとき、それを遅れずに果たさなければならない。」



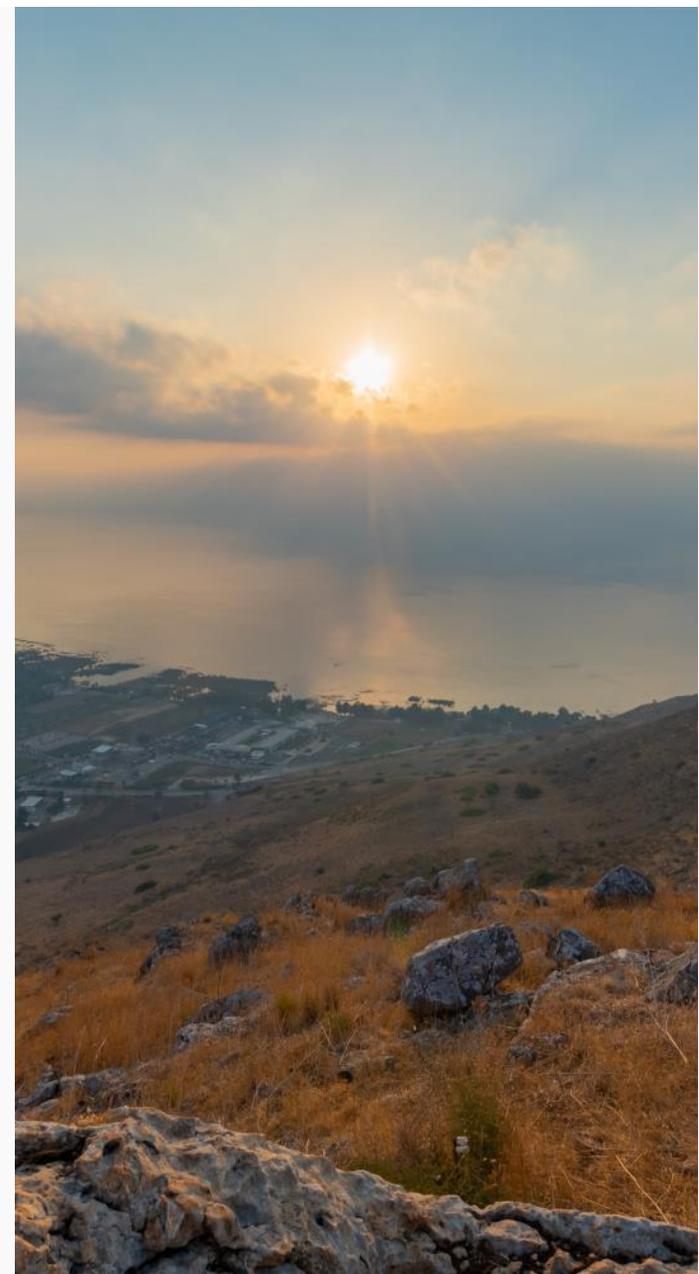
垂訓 誓ってはならない マタイ5:34

しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません。天にかけて誓ってはいけません。そこは神の御座だからです。

■ 誓い ≡ 借金

「○○にかけて」 ≡ 担保

➔ 担保にできるのは、自分の持ち物だけ!!

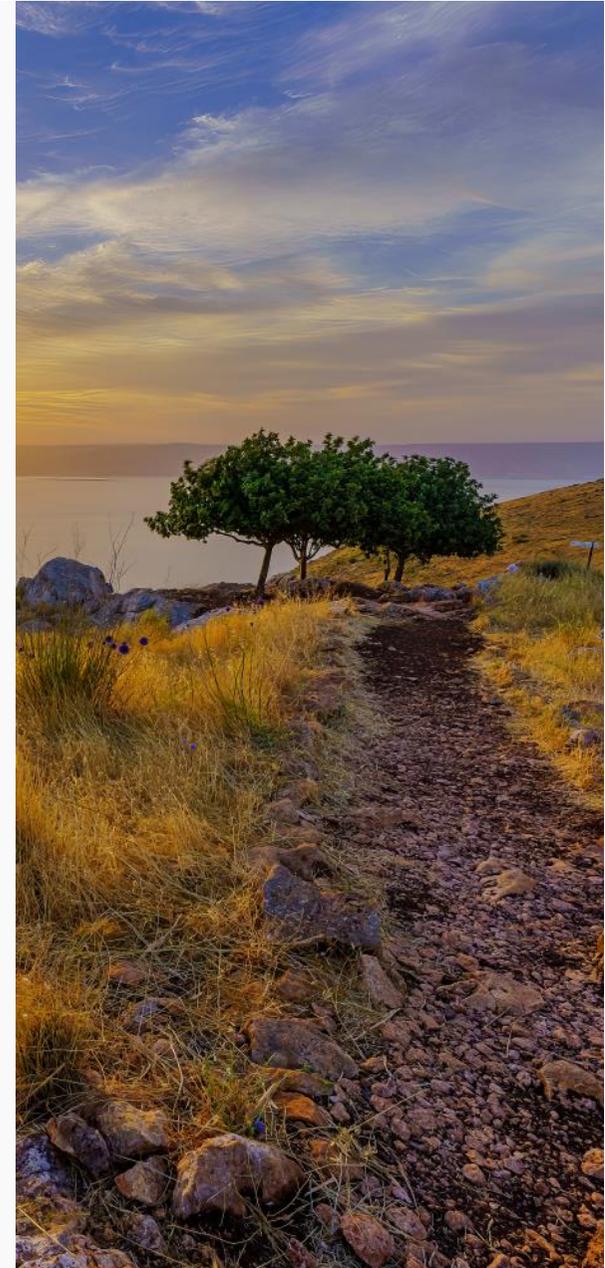


垂訓 髪の毛一本さえも マタイ5:35～36

地にかけて誓ってもいけません。そこは神の足台だからです。エルサレムにかけて誓ってもいけません。そこは偉大な王の都だからです。

自分の頭にかけて誓ってもいけません。あなたは髪の毛一本さえ白くも黒くもできないのですから。

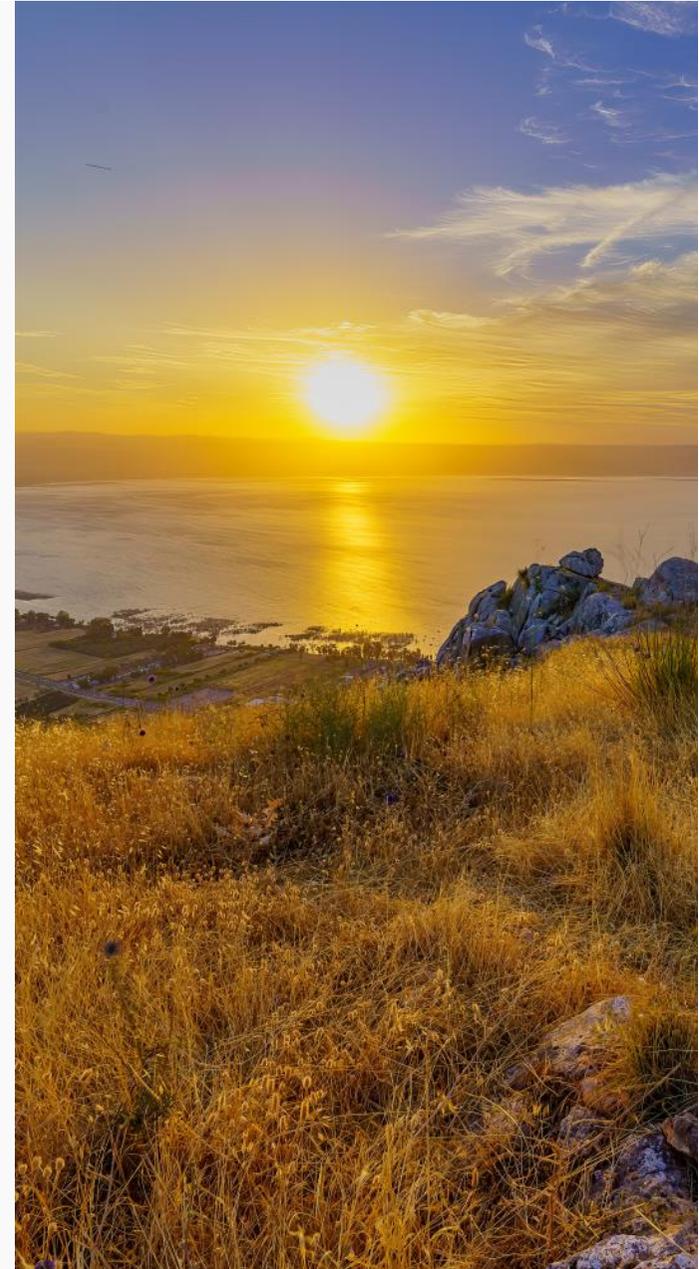
- 天も地も、神のもの。都は、王のもの。
- 自分の頭は？
 - ➔ 自分のものではない。
 - ➔ 髪の毛一本に至るまで、創造主のもの



垂訓 「はい」か「いいえ」か マタイ5:37

あなたがたの言うことばは、『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』としなさい。それ以上のことは悪い者から出ているのです。

- 人前での誓い。その背後に働いているのは？
…自己顕示欲?! 支配欲?! 承認欲求?!
→ エゴから出たもの 背後にはサタン
- 従うべきことには、「はい」と従う。
拒否すべきことは、「いいえ」と拒否する。





II. 主への従順

マタイ5章38～42節

ガリラヤ湖畔

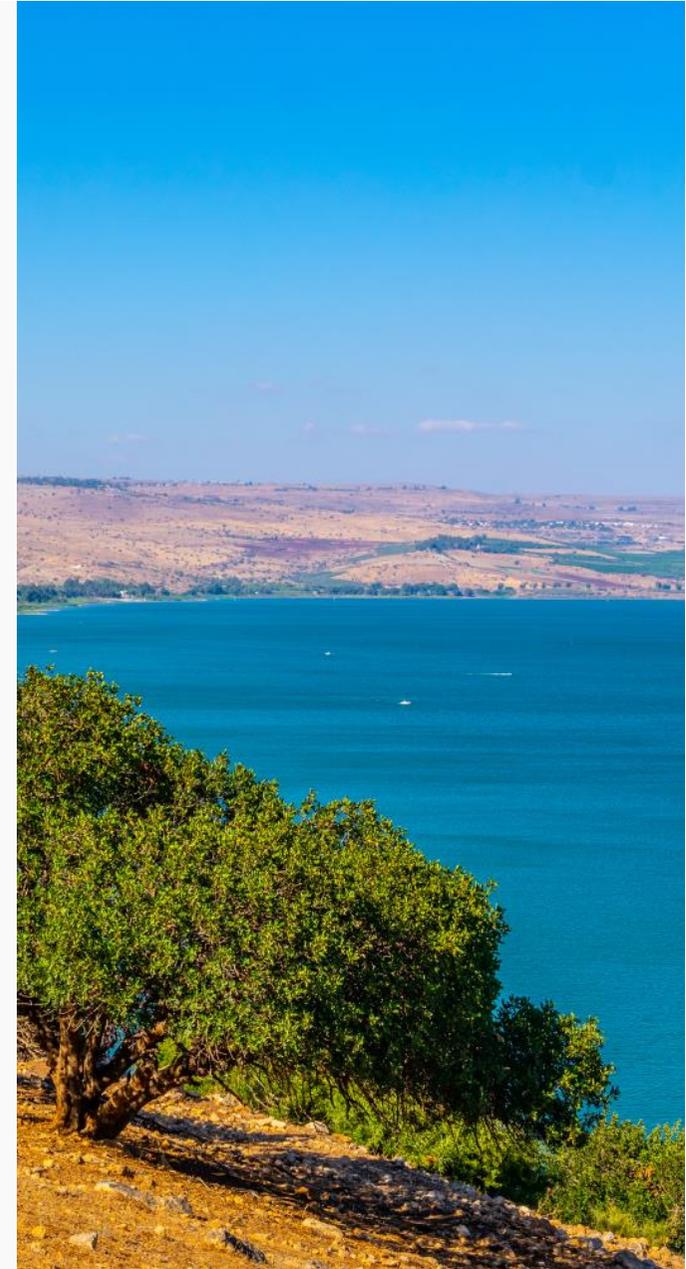
垂訓 目には目を マタイ5:38

『目には目を、歯には歯を』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。

■ レビ記24:19～20 「人がその同胞に傷を負わせるなら、その人は自分がしたのと同じようにされなければならない。骨折には骨折を、目には目を、歯には歯を。人に傷を負わせたのと同じように、自分もそうされなければならない。」

■ 同害報復法

➔ 復讐を限定、復讐の連鎖を断つ



垂訓 左の頬も マタイ5:39

しかし、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つ者には左の頬も向けなさい。

■「しもべの歌」 イザヤ50:5～7

【神】である主は私の耳を開いてくださった。私は逆らわず、うしろに退きもせず、打つ者に背中を任せ、ひげを抜く者に頬を任せ、侮辱されても、唾をかけられても、顔を隠さなかった。

➡「受難のしもべ」=初臨のメシア

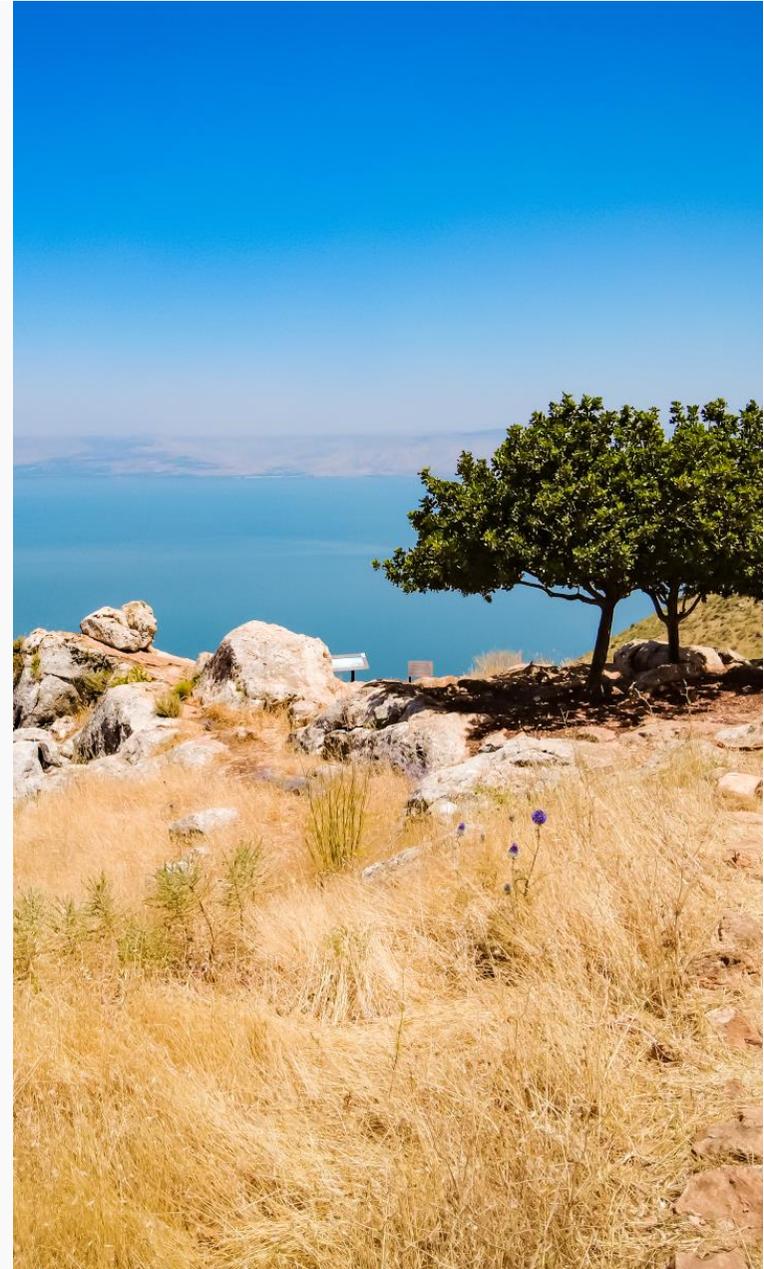


垂訓 下着も上着も マタイ5:40~41

あなたを告訴して下着を取ろうとする者には、上着も取らせなさい。

*命に関わる上着 出 22:26

もしも、隣人の上着を質に取ることがあれば、日没までにそれを返さなければならない。



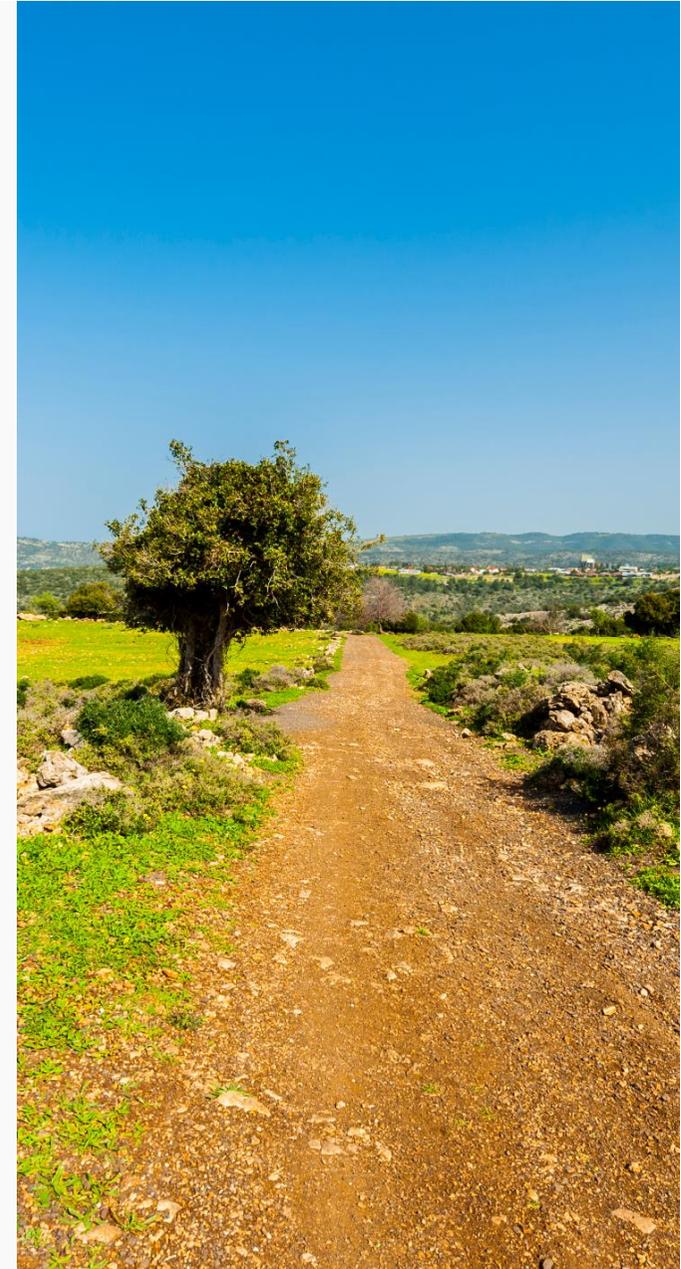
垂訓 一ミリオン マタイ5:41

あなたに一ミリオン* 行くように強いる者がい
れば、一緒に二ミリオン行きなさい。

*約1,500m

■ローマ兵の使役権 ルカ 23:26

「彼らはイエスを引いて行く途中、田舎から出て
来たシモンというクレネ人を捕まえ、この人に
十字架を負わせてイエスの後から運ばせた。」



垂訓 与えなさい マタイ5:42

求める者には与えなさい。借りようとする者に背を向けてはいけません。

■7年目の負債の免除 申15:3

異国人からは取り立ててもよいが、あなたの同胞があなたに借りているものは免除しなければならない。

■主イエスの命令 マタイ7:7

求めなさい。そうすれば与えられます。
探しなさい。そうすれば見出します。
たたきなさい。そうすれば開かれます。





Ⅲ. 完全な愛

マタイ5章43～48節

ガリラヤ湖畔

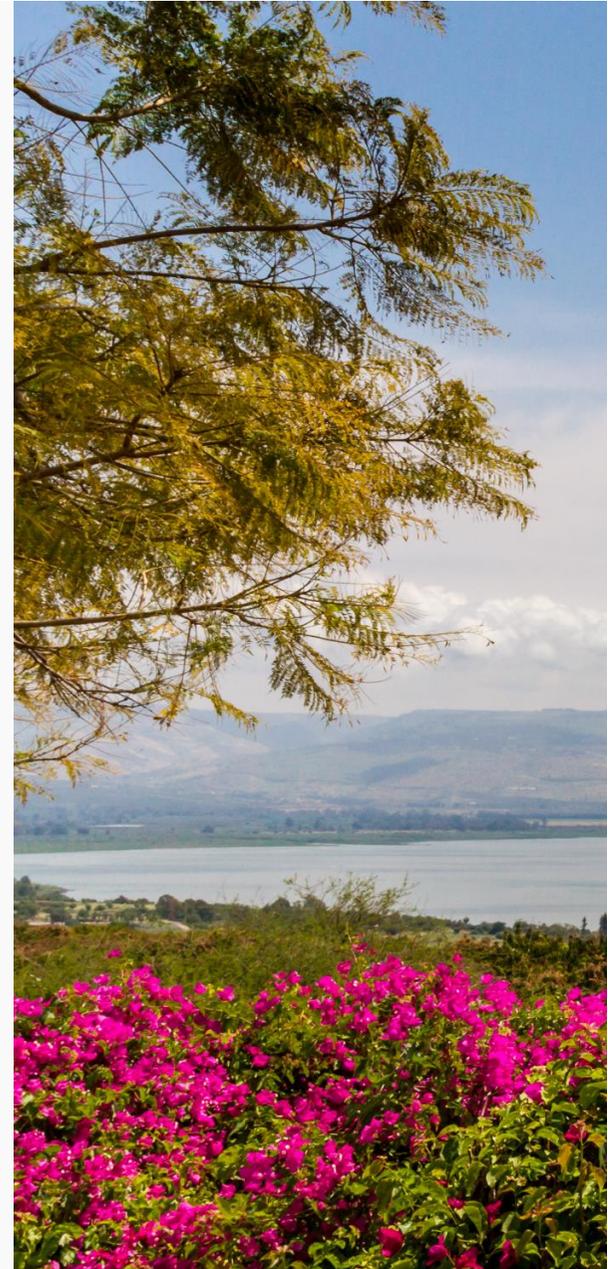
垂訓 隣人を愛し、敵を憎め マタイ5:43

『あなたの隣人を愛し*、あなたの敵を憎め*』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。

■ 律法の要約

レビ 19:18 あなたは復讐してはならない。あなたの民の人々に恨みを抱いてはならない。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい*。わたしは【主】である。

申 33:27 いにしえよりの神は、住まう家。下には永遠の腕がある。神はあなたの前から敵を追い払い、『根絶やしにせよ』*と命じられた。



垂訓 敵を愛せよ マタイ5:44~45

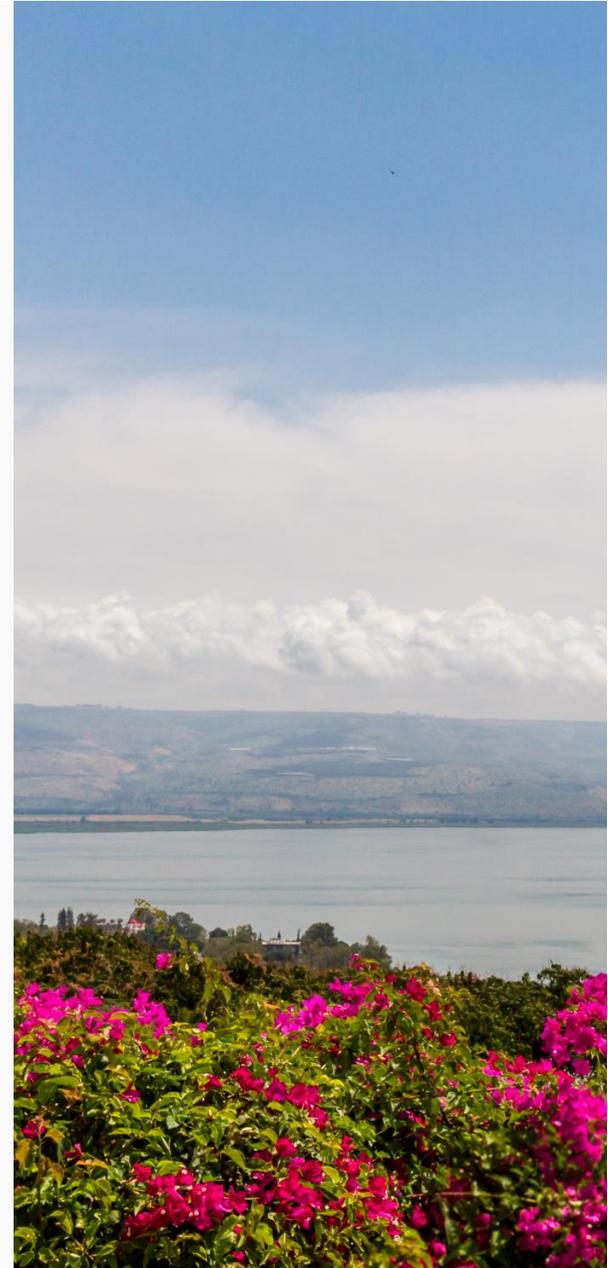
しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

天におられるあなたがたの父の子どもになるためです。父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからです。

■ 敵を愛し、迫害者のために祈れと命じられる。

すべての者を一方的に恵まれる神のゆえに。

➡ 神のこどもになりたいなら、従いなさい
(第一に、イスラエルに求められること)

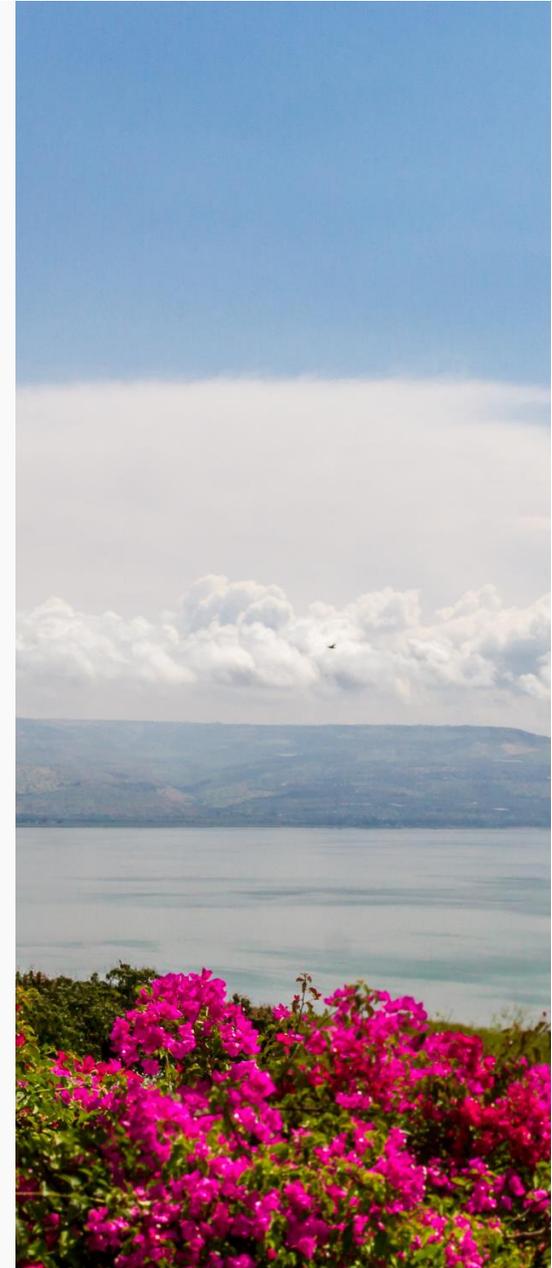


垂訓 何の報いもない マタイ5:46~47

自分を愛してくれる人を愛したとしても、あなたがたに何の報いがあるでしょうか。取税人でも同じことをしているではありませんか。

また、自分の兄弟にだけあいさつしたとしても、どれだけまさったことをしたことになるでしょうか。異邦人でも同じことをしているではありませんか。

- 神の民・イスラエルに求められるのは、神の愛をもって、敵をも愛すること。

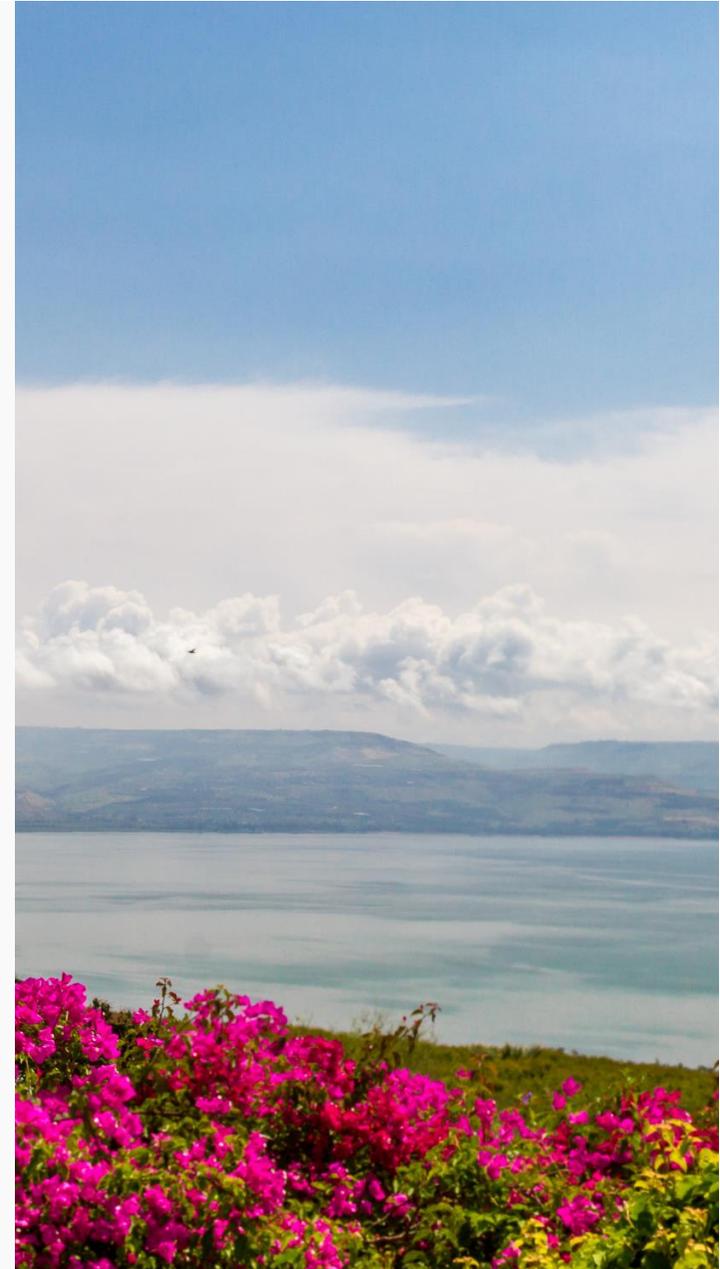


垂訓 完全であれ マタイ5:48

ですから、あなたがたの天の父が完全であるように、完全でありなさい。

- 完全な世界・神の国に入るためには、神のように完全にならないといけない。
➔ メシアにとっては当然のこと

一体誰が、
神の怒りを免れうるのか？





IV. まとめと適用

ただ主に委ねて 踏み出そう

イスラエルにとっての律法とは？

■ 出エジプト記19:3～6

「あなたは、こうヤコブの家に言い、イスラエルの子らに告げよ。『あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとの連れて来たことを見た。今、もしあなたがたが確かに**わたしの声**に聞き従い、**わたしの契約**を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる』これが、イスラエルの子らにあなたが語るべきことばである。」

律法が、イスラエルを神の民とする

律法の本質

■詩編19:7~10

主のおしえは完全で たましいを生き返らせ

主の証しは確かで 浅はかな者を賢くする。

主の戒めは真っ直ぐで 人の心を喜ばせ

主の仰せは清らかで 人の目を明るくする。

主からの恐れはきよく とこしえまでも変わらない。

主のさばきはまことであり ことごとく正しい。

それらは金よりも 多くの純金よりも慕わしく

蜜よりも 蜜蜂の巣の滴りよりも甘い。

律法に背き、裁きを招いたイスラエル

■ ネヘミヤ9:14,16~17

あなたの聖なる安息を彼らに教え、あなたのしもべモーセを通して、**命令と掟とみおしえ**を彼らに命じられました。

しかし彼ら、私たちの先祖は傲慢にふるまい、うなじを固くし、**あなたの命令**に聞き従いませんでした。

彼らは聞き従うことを拒み、彼らの間で行われた奇しいみわざを思い出さず、かえってうなじを固くし、かしらを立てて、逆らって奴隷の身に返ろうとしました。それにもかかわらず、あなたは赦しの神であり、情け深く、あわれみ深く、怒るのに遅く、恵み豊かであられ、彼らをお捨てになりませんでした。

イスラエルにとっての律法とは？

- 律法は、イスラエルの誇り、アイデンティティ、イスラエルの存在そのものの。
- しかし、**律法**を破り、偶像礼拝に陥り、滅びを招いた。
- 捕囚後、再び**律法**に立ち返って歩み始めた。
- 苦難の中でも、律法がなお、イスラエルを支え続けた。

ねじ曲げられていった律法

- アレクサンダー大王の侵略以降、ギリシャ文化が浸透。
- 人間中心のギリシャ文化に対するユダヤ人の激しい抵抗
→ パリサイ派の誕生
- パリサイ派は、人が付け加えた教え(口伝律法)に陥り、律法からかけ離れた状態に!!

劣等感と歪んだプライド

- 現実には、大国に翻弄され続けたイスラエル。
 - ➔ それでも一時的に、独立王朝(ハスモン王朝)も。
- ローマ支配下、傀儡のヘロデ王の下でも経済は繁栄。
 - ➔ ソロモン時代をもしのぐほどの荘厳な神殿が!!
- 劣等感とプライドの狭間から生まれた、選民思想。
 - ➔ 異邦人や、サマリア人に対する歪んだ優越感
「自分たちはアブラハムの子、神に選ばれた民。
ユダヤ人は誰もが、神の国に入ることができる」

メシアが砕かれた、イスラエルのプライド

- イスラエル(パリサイ派)は、律法(+口伝律法)を誇りに。
→ 自分たちこそ、正しい、真実の神の民
- メシアによる律法解釈が、彼らのプライドを粉々に!!
→ 神は、心の中まで問われる
一体誰が、律法を守り通すことができるのか？
- 神の目に幸いなのは、打ち砕かれた「心の貧しい者」
→ 自分に律法は守れない。メシアにすがるしかない!!

問われるクリスチャンのプライド

- クリスチャンであることが、優越感になっていないか？
- クリスチャンのための教会になっていないか？
 - ➔ まるで労使交渉？ 奉仕の引き下げが取引に!!
奉仕を拒む。好き勝手なだけの自由を主張。
- クリスチャンの最大のエゴは、福音の独り占め。
恵みの福音を誰かに伝えようとしない。むしろ阻む。

レスキューしないレスキュー隊になっていないか？

世の人から、突きつけられること

- 他者のため、地域のため、無償で尽くす人々がいる。
日々額に汗して働き、学びも欠かさない人々がいる。

「ヤコブ2:15~17 兄弟か姉妹に着る物がなく、毎日の食べ物にも事欠いているようなときに、あなたがたのうちのだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹になるまで食べなさい」と言っても、からだに必要な物を与えなければ、何の役に立つでしょう。

同じように、信仰も行いが伴わないなら、それだけでは死んだものです。」

世に対して、私は証しを立てているのか？

信仰の先人たちに、突きつけられること

■ 明治、大正、黎明期の信仰者たちが残した尊い働き 世への証し。

例) 留岡幸助兄。牧師。教誨師。

犯罪者の更生。

家庭環境から。感化院

「ただ信じて救われる」

→そこで終わってないか？



わたしは、信仰の実を結んでいるのか？

伝道しよう キリストの弟子として遣わされよう

- 信仰者の自由とは、主イエスのくびきを負うこと。自分の十字架を負い、主に従い歩むこと。
- クリスチャンへの主イエスの最大の命令は、福音宣教。そして、主の弟子として身をもって恵みを証しすること。
- 伝道は、決して思うように行かないから、否が応でも打ち砕かれる。本気で救われ欲しいと願うのなら、私自身の姿勢が自ずと問われて来る。

★ 言い訳の余地がないのが、クリスチャン ★

■ メシアの山上の説教に向き合えば、愕然とさせられる。私の内に力はないが、やらない言い訳にもならない。

■ 福音を信じて救われた私の内に、聖霊が住まわれている。聖霊の助けを受けるなら、できないことはない。

■ 打ち砕かれつつ、それでも遣わされて行こう。こんな私が用いられるからこそ、主イエスが証しされる。

主に委ねて、踏み出そう。主が用いてくださる。

てん とう つみ
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

かみ こ
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

① わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ
② 墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③ 三日目に復活したこと、を信じます。

わたし しんこう かみ いか えいえん すく え
私は、ただ信仰のゆえに、神の怒りから永遠の救いを得ました。

じぶん つみ むりょく つうかん わたし
それでも、自分の罪と無力さを痛感させられている私がいいます。

わたし ちから しゅ こた いっぽ ふ だ
私に力はありません。主に応えて一歩踏み出しますからどうか、

みたま わたし たす みちび しゅ しょうにん もち
御霊によって私を助け、導き、主の証人として用いてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」